

# 戦後の民主的ガバナンスの進化：参加論から熟議へ

松浦正浩, Ph.D.  
東京大学公共政策大学院

## 古典的市民参加

- 「政府の一方的な決定」の糾弾
- 構造的支配への対抗
- 革新自治体
  - 反対する人が一人でもいれば・・・
  - 日本の古典的構造制約に対する対抗運動
- 全体主義vs.個の尊重
  - NIMBY syndrome
  - “Silent Majority” by Richard Nixon

## 技術官僚主義

- 依らしむべし知らしむべからず
- 経済成長／物質的充足というコンセンサス
- 追いつけ追い越せ
  - 欧米化という明確な目標
- 天下りと恩給という報償
- 護送船団方式
- 冷戦という構造

## 情報公開

- 情報公開条例
  - 1980年代～（神奈川県など）
  - 技術官僚のblack boxに対する信頼→疑念
- 行政機関の保有する情報の公開に関する法律（情報公開法）
  - 1999年～
  - 行政改革の一環
- 国民、県民等の「知る権利」
  - 行使できる者が活用できる権利
  - 説明責任／請求があつてはじめて動く受身の姿勢

## 広報・広聴

- パブリックリレーションズ
  - 広報紙の発行
  - 行政広報センター等の運営・資料配架
- 行政による情報の自主的公開
  - ↑ ↓
- 行政による情報の操作 | 議会との関係
- 松戸市「すぐやる課」
  - H23度の要望の53%が「スズメ蜂などの巣の駆除」

## 参加型まちづくり

- 阪神淡路大震災からの復興
- 「この指とまれ」方式
  - 参加できる人の経済的・時間的余裕
  - 世代間格差
- やる気や活気を引き出すことに主眼
- 旧来の権力構造(町内会等)との関係
- 実効性、政治との接続の課題

## 市民VS.市民

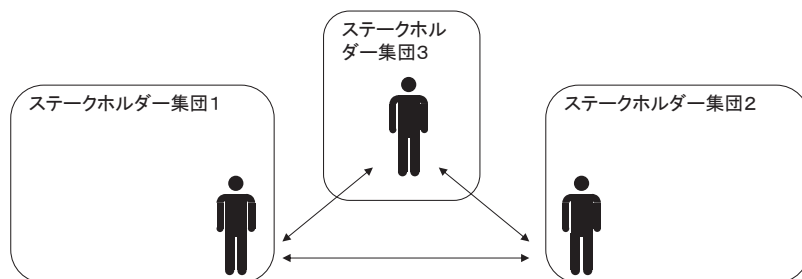
- Pluralism
  - R. Dahl: *Who Governs?*
  - 複数の利害関係集団が、目標実現のため、権力確保に向けて烏合
- 政府vs.市民ではない関係
  - 構造的支配ではなく、一定の構造化でのエージェント間の闘争
  - 経済成長、環境保護、その他諸々の対立

## 交渉による合意形成

- エージェントとして異なる利害を有する個人が、相互利益最大化のために交渉することが、生産性の最大化につながるという前提
- 政府による介入は自由な交渉を阻害
- 暗黙のルールのもとでの自由な交渉
  - 自由貿易、人権など
- 新自由主義の台頭

## エージェントとしてのステークホルダー

- 合意形成の主体は交渉に関わる当事者
  - いわゆる「ステークホルダー」
- 特定の意思・選好を持ったステークホルダー集団のエージェントとして、ステークホルダーの代表が交渉に参加



## 構造的制約への回帰

- 分配のjusticeへの関心
  - 与えられた「自由な交渉」の不自由さ
  - Barak Obama大統領の選出
    - ✓ moveon.orgの運動
    - ✓ 学生、貧困層のvoter registration促進運動
  - 高所得者層優遇税制のしがらみ
    - ✓ Warren Buffet
- 欧米における医療保険、イスラム系移民等の構造的課題への対応
- BRICSの経済成長と成長の限界の相克

## 熟議への関心

- ギリシャの民主政
  - 市民の対話
- アメリカのタウンミーティング
  - 19世紀 A. Tocquevilleの叙述
  - 全町民の直接参加
- 自由で対等な立場からの対話
  - 構造的制約にしばられない
  - 職業、利害、ステーク(ホルダー)など
- 自らの利害拡張以外の「公共」への関心

## 2ちゃんねるの「破壊」性

- 殺人予告、「辛らつな」表現など
- 「法」への挑戦
- 自由な言論の場
- “ideal speech situation” ?
  - reciprocity、empathyの欠如
- 構造的制約への挑戦の場

## 言論の自由と支配

- 中華人民共和国のネット規制
  - Twitterのつながらない世界
  - 電子メールの検閲される世界
  - とめられない「微博」
- 日本における言論の自由の問題
  - 戦中の検閲
  - 報道機関の自主規制
  - 公職選挙法による規制
  - 刑事訴追の裁量
- アメリカ合衆国における大手メディア支配

## 情報技術と民主制

- 構造的支配
  - 技術に伴う「力」
    - ✓ 持つ者と持たざる者
  - 技術に係る法規制
  - 情報(コンテンツ)に係る法規制
  - 実効的な圧力・脅威
  - 認識、言語の操作
- 仮説: 真に民主的なガバナンスを実現するためには、上記の構造的支配から解放されなければならない。
- 君たちへの挑戦:  
上記の仮説の棄却を実証的に試みよ。